

令和4年度
袖ヶ浦市立図書館サービス状況
点検・評価

令和5年8月
袖ヶ浦市立中央図書館

◎令和4年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価について

“図書館はサービス水準の向上を図るため、サービスの実施状況について点検及び評価を行う際の評価指標及び目標年度を令和7年度とする数値目標を設定し、その達成状況等について、年度ごとに点検及び評価を行います。”

（「袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画」3-5サービス評価指標 による）

図書館法は、第7条の3及び第7条の4において、図書館が自らの運営状況について評価を行い、その結果に基づき、運営の改善のための必要な措置を講じ、運営状況に関する情報を地域住民等へ積極的に提供するよう努めなければならないことを規定しています。

袖ヶ浦市立図書館は、平成23年度に袖ヶ浦市第3次図書館サービス網計画を策定し、その後、地域住民の代表である図書館協議会の協力を得ながら、図書館サービスの実施状況について年度ごとに点検・評価を行い、公表してきました。

第3次図書館サービス網計画の計画期間は令和2年度で満了し、袖ヶ浦市立図書館は、令和3年度を初年度とする袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画を新たに策定しました。今回は、前期計画2年目の点検・評価となります。

なお、第4次図書館サービス網計画の計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年ですが、図書館を取り巻く環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間を前期と後期の各5年に分け、サービス評価指標及び参考指標と数値目標については、前期の最終年度である令和7年度を目標年次としています。

◎令和4年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価の評価方法

袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画において、数値目標を設定した指標は、サービス内容(1)に対応するサービス評価指標(①～⑪)と、サービス内容(2)(3)に対応する参考指標(⑫～⑳)で構成されています。これらの指標のうち、参考指標については主に活動指標(※1)であることから評価の対象とせず、成果指標(※2)が主である①～⑪のサービス評価指標の達成度に基づいて評価するものとししました。

なお、袖ヶ浦市立図書館では、日本図書館協会が策定した「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら図書館サービスの遂行に努めました。しかし、感染予防対策を講じることが困難な一部のサービスや事業については停止や制限等の措置を取ったことから、図書館運営に対する新型コロナウイルスの影響を考慮し、令和4年度の点検・評価については以下の方法で行いました。

※1 活動指標：目標を達成するための手段（事業の進め方・やり方）の大きさを表す指標。（アウトプット指標）

※2 成果指標：事務事業を行うことによって対象にどれだけの効果を与えることができたかを表す指標。（アウトカム指標）

1 点検

令和4年度に行った図書館サービスについて、第4次図書館サービス網計画のサービス内容(1)(2)(3)ごとの取組状況シートを作成し、「取組内容」「指標の実績値と達成率」「成果・効果」「課題」「今後の対応」を記載しました。

2 図書館協議会からの意見

地域住民の代表である図書館協議会委員からの意見をサービス内容ごとに伺い、サービス内容(1)(2)(3)のシートに「図書館協議会からの意見」としてまとめました。

3 評価

(1) サービス評価指標①～⑪の目標値に対する達成度を5段階表示しました。

◎：目標値に対して100%以上の達成率 ○：目標値に対して80%以上100%未満の達成率 △：目標値に対して60%以上80%未満の達成率 ×：目標値に対して60%未満の達成率 －：目標値を達成するために実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で予定どおり実施できなかった。

(2) サービス評価指標①～⑪の達成度について、◎を30点、○を20点、△を10点、×を0点として採点し、平均値を全体評価としてA・B・C・Nの4段階で表示しました。

全体評価区分 A：施策の成果が十分に図られている。24点以上（80%以上） B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。 18点以上24点未満（60%以上80%未満） C：施策の成果が十分に図られているとは言えず改善を要する。 18点未満（60%未満） N：新型コロナウイルス感染症の影響により、指標の達成度に「－」が半数以上あり、評価不可能である。

◎令和4年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価

袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画に定めるサービス評価指標の、令和4年度における達成度は以下のとおりでした。

令和4年度達成度点数合計 240 点 ÷ 項目数 11 = 平均値 21.8 点 ⇒ 全体評価：B

サービス評価指標	R7 目標値	R4 実績値	達成率	達成度	点数
① 市民1人当たりの所蔵図書冊数	11.3 冊	10.9 冊	96.5%	○	20 点
② 袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300 冊	345 冊	115.0%	◎	30 点
③ 年間個人貸出利用者数	149,000 人	127,647 人	85.7%	○	20 点
④ 年間個人貸出資料点数	550,000 点	531,779 点	96.7%	○	20 点
⑤ 市民1人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5 点	8.1 点	95.3%	○	20 点
⑥ 年間市民新規登録者数	1,400 人	1,181 人	84.4%	○	20 点
⑦ 市民登録率	42%	38.0%	90.5%	○	20 点
⑧ 年間リクエスト処理件数	55,000 件	68,269 件	124.1%	◎	30 点
⑨ 年間レファレンス処理件数	1,200 件	936 件	78.0%	△	10 点
⑩ 1か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000 件	4,277.3 件	106.9%	◎	30 点
⑪ 来館者満足度	80%	74.0%	92.5%	○	20 点
全 体 評 価			B	合計点 240 点	
				平均点 21.8 点	

【全体評価】

サービス評価指標 11 項目の達成度点数合計点 240 点を項目数 11 で除算した平均点は、21.8 点となり、全体評価は「B」となります。

【総括】

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いたこともあり、利用状況も改善され、コロナ禍前の状況に戻りつつあります。

サービス評価指標では、全11項目のうち、10項目で達成率80%以上となりましたが、達成率100%を超えた項目は②、⑧、⑩の3つのみでした。

達成率80%以上100%未満となった7つの項目のうち、①一人当たりの所蔵図書冊数、⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数については、図書館サービスの充実や積極的な情報提供に努めた結果、所蔵図書冊数、貸出資料点数ともに順調に増加しました。限られた予算の中で図書館として必要な資料だけでなく、市民の暮らしがより豊かなものとなることを目指し、課題解決や生涯学習の一助となるべく、長い年月にわたり活用できる良書を厳選して収集しております。

⑦市民登録率については、令和2年度に市人口が令和7年度目標値65,000人を超え、令和5年3月末には65,777人となり人口増加を続けています。市民登録率の目標値は市人口の42%で、27,626人の登録が必要でしたが、2,629人不足しており達成率100%には及びませんでした。図書館を利用してもらえるように、きっかけづくりのイベントとなる読み聞かせ、お話し会などを開催し、広報紙や図書館ホームページ、ツイッターなどを活用してPRを行うことで新規登録者増に努めます。

③年間個人貸出利用者数、⑥年間市民新規登録者数の2項目については達成率が90%未満であり、この項目の達成率を向上させることは、④年間個人貸出資料点数、⑦市民登録率など他の項目の達成率向上にもつながることから、前述のとおり利用者、新規登録者の増に取り組み、より多くの市民が「市民の書斎として、思索の場として、そして市民のふれあいの場として」図書館を利用するように努めます。

⑪来館者満足度については、「図書館の利用に関するアンケート結果報告書令和4年度」でアンケート項目として設けていたもので、「満足」「やや満足」と回答のあった割合が74.0%でした。アンケートでは図書館の良いところ、改善して欲しいところ、自身の図書館への思いなどもあわせて書いていただき、図書館職員の励みにもなりました。今後一層利用者の図書館に対する期待に応えられるように努め、満足度が向上していくようにしていきたいと考えます。

また、昨年度目標値に対し60%未満の達成率だった⑨年間レファレンス処理件数は、昨年度比で40%以上増加しましたが、残念ながら達成率80%に満たず△の評価となりました。令和5年度は、来館者数もコロナ禍前の状況に戻りつつある中、フロアワークでの声掛けを行い、中央図書館では児童カウンターへの職員配置の再開などを行い、レファレンス処理件数の増に取り組みます。

サービス内容（１）「資料及び情報の収集、提供等」取組状況シート
（評価については４ページに掲載）

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

① 図書館資料の収集

- ・「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、新刊図書を中心に購入し、全館の開架資料 313,194 冊に対して 11,420 冊を受入（うち購入 10,288 冊）し、開架書架の約 3.6%を更新した。
- ・寄贈図書の受入れを積極的に行い、1,100 冊（一般書 1,065 冊（うち郷土資料 545 冊、一般用 520 冊）、児童書 35 冊）を受け入れた。
- ・行政資料について年度当初に市役所内に広く寄贈を呼び掛けた。データのみで公表した資料は図書館で製本して受け入れたほか、電子資料としても保存することとした。図書館で製本した袖ヶ浦市関係郷土行政資料 41 タイトル、99 冊。

☆平川図書館の小説の書架について、一番下の棚を空けて高齢の利用者でも本を探しやすいように配慮した。

② 貸出サービス

☆幅広い年代に対して図書館の豊富な資料を紹介する取組みとして、特設コーナー等で市民の生活課題の解決に資するテーマを積極的に取上げた。6月と9月にはミニ特設コーナー（6月「千葉を知ろう」、9月「自殺予防週間関連ミニコーナー」）を設置した結果、多くの資料貸出があった。また、平川図書館では蔵書内容の特性を活かして、独自のテーマで展示する月を設けた。

- ・WebOPAC（インターネット上でアクセスできる蔵書目録）上で「図書館おすすめ」の「ビジネス書」「自殺予防週間関連」「男女共同参画社会関連図書リスト」等を更新したほか、利用者の関心が高いと思われるNHKの大河ドラマに合わせたテーマなどを取上げた。
- ・男女共同参画週間（6/23～6/29）に合わせ、6月の特設コーナー「共に生きる」で関連図書を紹介した。また、司書が選定した令和4年度版「男女共同参画社会図書リスト」を作成し、図書館（中央・長浦・平川図書館）だけでなく市民協働推進課でも配布した。

☆特設コーナーとは別に、時事的なテーマのおすすめ図書を紹介する取組みとして、4月に中央図書館でウクライナ戦争関連図書コーナーを設置した。また、長浦おかのうえ図書館のカウンター前に、時節にちなんだテーマに関するおすすめ図書コーナーを、年間に5つのテーマで設置した。

- ・映画会、文芸講座など読書普及事業の開催時に関連図書を紹介した。また、講座「相続財産どこからどこまで？」の開催に合わせ、長浦おかのうえ図書館のカウンター前で「シニアライフをたのしむ」というテーマで展示・貸出を行った。さらに、秋のトショロ月間の企画として、長浦おかのうえ図書館のカウンター前で「図書館で楽しむ日本の美・世界の美」というテーマで展示・貸出を行った。
- ・図書館ホームページに図書館員の個性を生かしたテーマで「図書館員のおすすめ」を2か月ごとに掲載した。
- ・「若い人に贈る図書館お薦めの20冊」の図書リストを改訂して図書館内で配布した。また、館内の特設コーナーやWebOPACの「図書館おすすめ」、ツイッターでもリストを紹介した。
- ・平岡公民館に設置している中央・長浦・平川の雑誌のバックナンバーのタイトルを見直し、より利用者のニーズに応じたものに変更し、貸出の増につなげた。
- ・スタンプラリー、本のおたのしみ袋、えほんのふくぶくろなど、資料の貸出増につながる事業や

企画について年間を通じて推進した。

- ・長浦・平川における児童書の利用促進を図るため、対象年齢別に「すぐに借りて帰りたい人のためのおすすめ絵本セット」を作成した。
 - ・保育所がコロナ禍で令和2年度以降中止していた集団での来館を再開し、11月以降、各地区の保育所の子どもたちが定期的に図書館・図書室を訪れ本を借りるようになった。
- ☆図書館を直接利用しない市民にも図書館の資料を広く提供するため、新たに市内デイサービス提供事業者へ団体貸出サービスについての利用案内を行った。
- ★市民の読書環境充実と、図書館の利用機会の拡大を図ることを目的として、図書館を利用する機会が少ない勤労世代や学生を主な対象に、来館しなくても利用できる電子図書館サービスを8月から開始した。提供コンテンツ数292点、のべ貸出冊数734点

③ レファレンス・情報提供サービス

- ・市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスを推進し、インターネットやデータベース等も活用して、利用者の求めに応じた資料及び情報の提供・紹介等を行った。
 - ・袖ヶ浦市立図書館の所蔵資料では解決できないレファレンスについて、県立図書館へのレファレンス依頼を行い、連携して利用者の課題解決に努めた。
- ☆パスファインダー（調べ案内）は、大人向けに「『新聞記事の探し方』～調べ案内～」改訂版と「相続・遺言」を、児童向けには「仕事・職業について」をそれぞれ作成し、図書館のホームページに案内を掲載した。紙の資料は全館で配布した他、テーマに合わせて活用してもらうために、郷土博物館など社会教育施設や高齢者支援課等関係機関にも配布した。
- ・図書館の特設コーナーで、月替わりで時機をとらえた共通のテーマで関連図書を紹介した。SDGsの目標に対応したテーマを積極的に取上げ、17の目標のうち8つの目標について紹介した。また、秋のトショロ月間においてもSDGsに関する啓発を図った。
 - ・市役所職員向けに毎月、袖ヶ浦市関連の新聞記事見出し一覧を公開するとともに、レファレンスサービスの周知を行った。
- ☆図書館だよりでレファレンスの事例紹介を行うとともに、中央図書館レファレンスコーナーの掲示物のリニューアルを行い、レファレンスに関する周知を図った。

サービス評価指標	R7 目標値	R4 実績値	達成度
①市民一人当たりの所蔵図書冊数	11.3冊	10.9冊	○
②袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300冊	345冊	◎
③年間個人貸出利用者数	149,000人	127,647人	○
④年間個人貸出資料点数	550,000点	531,779点	○
⑤市民1人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5点	8.1点	○
⑥年間市民新規登録者数	1,400人	1,181人	○
⑦市民登録率	42%	38.0%	○
⑧年間リクエスト処理件数	55,000件	68,269件	◎
⑨年間レファレンス処理件数	1,200件	936件	△
⑩1か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000件	4277.3件	◎
⑪来館者満足度	80%	74.0%	○

成果・効果

- ・特設コーナーだけでなく、WebOPACや読書普及事業など様々な機会を通じて、図書館職員の選んだおすすめ図書を紹介するなど利用増につながる取組みを積極的に行ったことにより、個人貸出利用者数、個人貸出資料点数ともに増加した。
- ・電子図書館を開館したことにより市民の新規登録者が増加し、開館中に図書館へ足を運ぶことが難しい学生や勤労世代へ利用機会の拡大を図ることができた。

課題

- ・レファレンス処理件数が、回復傾向にはあるもののコロナ禍前の令和元年度の水準に満たないことから、図書館から積極的にPRしていく必要がある。
- ・電子図書館の主な利用者層は現状では40～60代であり、当初想定していた10～20代の利用が少ないことから今後の利用促進について検討する必要がある。

今後の対応

- ・図書館だよりでレファレンスの事例紹介を行う等、レファレンスサービスの周知活動を行うとともに、感染状況を考慮しながらフロアワークでの声掛けや中央図書館児童カウンターへの職員配置の再開を検討し、レファレンスサービスの向上に努める。
- ・電子図書館がより多くの市民に利用されるように、図書館ホームページ（トップページ）に電子図書館のバナーを作成し、容易にアクセスできるようにするとともに、電子書籍の小説について、より幅広い世代に読まれる一般文芸書の比率を増やすなど選定方針を変更する。

図書館協議会の意見

- ・小さい子どもでも利用登録ができるという事についての周知が十分ではないと思います。子どもが図書館に足を運んだ時に登録に繋がるように、児童コーナーに張り紙等をするものを検討されてはいかがでしょうか。
- ・新規登録について、Web上で登録ができるような仕組みの導入を検討されてはいかがでしょうか。
- ・行政資料、郷土資料を製本化、電子化により保存し、その情報を行政に提供する取組は市政にとっても重要です。これが有効的に活用されるよう十分な周知を行うことを期待します。
- ・レファレンスについて、エプロンにつける「気軽にどうぞねください」というような表示など、司書に気軽に声をかけてもらえるような雰囲気づくりを検討されてはいかがでしょうか。

サービス内容（２）「利用者に応じたサービス」取組状況シート

参考指標

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

① 乳幼児と保護者に対するサービス

☆0歳からの乳幼児を対象とする事業は、感染予防対策を講じることが困難なため令和2年4月以降中止していたが、国の規制緩和の動向を受けて、「すきすき絵本タイム」を試行として再開した。しかし対応できるすきすき絵本タイムボランティアの人数が少ないため、夏と秋のトショロ月間内のイベントで扱うこと、根形公民館図書室で開催すること等、実施方法を工夫した。

- ・家庭における読書活動を推進するため、保健センターと中央図書館で「図書館でブックスタート」を毎月1回ずつ実施した。配布率52.0%。

☆「ブックスタート事業」をより周知するため、対象とする若い世代向けに市の公式LINEなどのSNSツールも活用した。また日本語を母語としない保護者が参加しやすくするため、ブックスタートで配布する資料のアドバイスブックを多言語及び多言語絵本の紹介チラシを新たに作成した。

☆通常第3火曜日に行う「図書館でブックスタート」を平日に参加しづらい方に対応するため、夏のトショロ月間内は日曜日に試行開催した。

- ・保健センターで行っている4か月児教室でのブックスタートについて、「おすすめ絵本・育児本の紹介」をコロナ禍のため中止していたが、コロナの規制がなくなったこと、予約制にして定員が少なくなり密になる可能性がなくなったことから、紹介を再開した。

☆0歳からの「おひざにだっこのおはなし会」は感染症対策を講じて試行開催した。また、マスク着用ができることを条件に3歳以上の児童を対象とする「えほんのひろば」を中央図書館で開催したところ好評かつニーズが高いことが分かった。そこで12月以降は長浦、平川でも開催し、毎月いずれかの館で1回は実施し、参加者と参加機会の拡大を図った。

- ・中央、長浦おかのうえ図書館で「子どもイベント」として通常開催している「えほんのひろば」を対象年齢をあわせた「子ども映画会」をコラボさせることで1回あたりの参加人数がほぼ2倍となった。
- ・感染予防対策を講じながら、保育所、小学校、子育て支援施設等への出張おはなし会を行った。新設の保育園からも依頼があり、コロナ禍前を7%上回り372回実施した。
- ・対象年齢別のおすすめ図書リストを発行し、図書館ホームページへの掲載を行うことで利用・活用しやすくした。
- ・児童室では季節にあわせたおすすめ図書を展示し、適宜ツイッターで周知した。また、対象年齢別のおすすめ図書リストを発行し、図書館ホームページへの掲載を行うことで利用・活用しやすくした。

☆「子どもの本の講座」を開催し、講師にお話を聞く楽しさやお話し選び、語るポイントなどに関することを実演も交えて講義していただいた。

★「図書館でブックスタート」「すきすき絵本タイム」「おひざにだっこのおはなし会」「えほんのひろば」「おはなし会」の申し込みがWeb上でできるように申し込みフォームを整備した。ブックスタートは、健康推進課で新生児訪問時などに配布しているチラシにQRコードを掲載して、より多くの方に広め、参加できるように工夫した。

- ・夏のトショロ月間では子どもたちが読書に関心を持つきっかけとなるように「お題の本 DE BINGO!!」（平川）や「トショロからの挑戦状」（根形・平岡）を実施した。秋の

トショロ月間では子どもたちと本との新しい出会いにつながるように、絵本を紹介する「本のおみくじ」（平川・根形・平岡）の取組みを行った。

② 児童・青少年に対するサービス

- ・感染予防対策を講じながら、館内おはなし会を定期的で開催したほか、保育所・小学校・学童保育等への出張おはなし会を実施した。おはなし会等実施回数合計 371 回
- ☆夏のトショロ月間の新たな企画として、中央図書館では小学校中学年から中学生向けに「ちよっぴりながいおはなし会」、長浦おかのうえ図書館では「英語でおはなし会！を開催した。平川図書館では、おはなし会とコラボした「みんなでたのしいぬりえ教室」を、ボランティアを講師として開催した。講座終了後カウンターでオリジナルのトショロのぬりえの配布と展示を行ったところ、34名の児童の参加があった。
- ・年齢別おすすめ図書リストを2回作成し、図書館ホームページへの掲載と館内以外に学校や保育所等へ配布した。各館の児童室では、テーマを決めた定期的なおすすめ図書の紹介展示を行った。
- ・夏休みの課題支援の一環として、夏のトショロ月間期間内に調べ学習や読書感想文、自由研究についての問い合わせに約 200 件対応した。その他、読書感想文におすすめの図書のリストやパスファインダーを作成し、資料として館内で配布を行った。また、図書館ホームページへの掲載、ツイッターでの周知等広報に努めた。
- ・青少年の図書利用を促進するため、中学生向けの「ジュニアコーナー」や高校生向けの「青少年コーナー」の図書充実を図ったほか、昨年度に引き続き中学生・高校生向けに「イチオシ本のPOPを書こう！」を企画し、市内の中学校4校、高校1校から536人の応募があった。
- ・子どもが読書に関心を持つきっかけとなるイベントとして、こどもの読書週間記念行事を開催した。それに先行して、スタンプラリーの台紙を配布するなどを行い、積極的にPRした結果、参加者数や児童書の貸出数の増加につながった。

③ 成人に対するサービス

- ・各館では月替わりでおすすめ図書を紹介する特設コーナーを設けている。時期に応じて関心の高いテーマを取上げるとともに、WebOPACの「図書館おすすめ」にリストを掲載し、ホームページのお知らせ、ツイッターで広報に努めた。
- ・会議資料の作り方、起業、転職、経営に関する本など、働く上で役立つビジネス資料を積極的に収集した。さらに、WebOPACの「図書館おすすめ」のリストに掲載している「ビジネス書（2022年発行）」を2回更新し、図書館で収集した新刊ビジネス書の紹介に努めた。

④ 高齢者に対するサービス

- ・地域の高齢化の進行に対応するため、市民の関心が高く、常に新しい情報が求められる社会福祉と医学関連の図書を積極的に収集した。社会福祉の分野の図書（一般書）を全館で108冊収集し、同分野の全開架図書2,167冊の約5%を更新したほか、医学・薬学の分野の図書を全館で559冊収集し、同分野の全開架図書9,896冊の約5.6%を更新した。
- ・高齢者が利用しやすい資料として、大活字本134冊（59タイトル）や朗読CD12点（12タイトル）を購入した。WebOPACの「図書館おすすめ」に「大活字本リスト 小説・2021年から発行」のリストを更新し、資料の紹介に努めた。

・秋のトショロ月間の期間には、長浦おかのうえ図書館で「相続財産どこからどこまで？」をテーマに開催した。これに関連して、カウンター前で「シニアライフを楽しむ」というテーマでおすすめ図書の紹介展示を行った。

☆高齢者が読書に親しめる大活字本や朗読CDについてPRするポスターを、病院やスーパーマーケットにも掲示依頼して広く周知に努めた。

⑤ 図書館利用に障がいのある人に対するサービス

- ・心身の障がいや長期のケガ、病気等により図書館への来館が困難な市民を対象に、依頼に応じて図書館資料を届ける宅配サービスを実施した。宅配による貸出 123 冊。
- ・社会福祉協議会を通じて中川・富岡地区の民生委員へ「宅配サービス利用案内」の配布依頼をして周知に努めた。
- ・学習障がい等により読みに苦手さのある子どもへ読書支援を行うため、図書流通システムを介して行うデージー図書（※1）の提供を行い、その利用を促すため新たに申込書式を作成した。また、実施要領や申請書、案内等をわかりやすく改訂し、学校への周知を図った。

⑥ 多文化サービス

- ・外国語（英語）の図書 23 冊（一般書 15 冊、児童書 8 冊）を購入し、WebOPACの「図書館おすすめ」にも「令和4年度受け入れ洋書リスト」を掲載して資料の紹介に努めた。
- ・日本語を母語としない子どもへの読書支援として、図書流通システムを介して多言語対応の電子絵本（※2）の提供を行い、その利用を促すため新たに申込書式を作成した。また、実施要領や申請書をわかりやすく改訂し、学校への周知を図った。

☆外国語資料を活用した取組みとして、夏のトショロ月間の中で「英語でおはなし会！」を2回開催したところ、通常のおはなし会では参加の少ない小学3、4年生の参加もあった。併せて、会場に外国語の絵本を展示し、外国語資料の紹介に努めた。

★外国語図書コーナーが未設置の長浦おかのうえ図書館、平川図書館、根形公民館図書室で外国語の絵本を日本語訳の絵本と並べて紹介展示し、貸出の機会を設けた。

参 考 指 標	R7 目標値	R4 実績値	達成度
⑫ブックスタートの年間配布率	80%	52.0%	△
⑬こどもの読書週間記念行事の参加者数	900人	1,064人	◎
⑭おはなし会の年間実施回数	480回	449回	○
⑮子ども向けお薦め本リストの年間発行回数	6回	8回	◎
⑯成人向けお薦め本コーナーの年間企画数	12件	30件	◎
⑰大活字本の年間貸出冊数	4,000冊	4,619冊	◎
⑱宅配による年間貸出資料点数	330点	123点	×

成果・効果

- ・感染予防対策を講じたうえで乳幼児向けに「ブックスタート」「すきすき絵本タイム」「おひぎにだっこのおはなし会」「えほんのひろば」を行ったほか、小学校中学年から中学生向けには「ちょっぴりながいおはなし会」を実施するなど、より幅広い年代に対して子どもの発達段階に応じた読書活動を推進することができた。
- ・Web上でイベントの申し込みができるように申し込みフォームを整備し、利便性を図ったことにより新規の参加につながった。
- ・大活字本と朗読CDについて、病院やスーパーマーケット等図書館以外の場所にもポスター

を掲示するなど積極的なPRを行い、大活字本の年間貸出冊数が増えた。

課題

- ・読みに苦手さのある子どもを対象とする読書支援サービスの体制を整備したが、実際の利用に結びついていない。
- ・宅配サービスについては、新型コロナウイルスの影響と利用者個々の事情により大幅に利用が減少した。

今後の対応

- ・読書支援サービスについて、総合教育センターと連携して学校への周知に努めるとともに、児童発達支援施設や特別支援学校などの施設に対しても、デイジー図書の貸出等の周知を図る。
- ・宅配サービスについて、袖ヶ浦市心身障害者（児）福祉会等の当事者団体へも案内を送るなど周知の拡大を図るとともに、登録している利用者各々の状況を確認し、きめ細かな対応を行う。また、宅配サービスの対象となる来館困難者について、要件の緩和を検討する。

図書館協議会の意見

- ・母親と子どもという前提で乳幼児サービスを考えているように感じます。学校現場では父親の参加が増えており、父親への周知は難しいですが、次の利用者となる潜在的な層であると感じますので、図書館に来るのを「待つ」だけでなく父親の所に「入る」ということも検討してはいかがでしょうか。
- ・健常の方でも高齢になって字を読むのが大変だったり、老眼で見えにくくなったりするので、朗読CDなど聞く読書はとても有効だと思います。
- ・デイジー図書は小学生レベルのものもあるので、個別に進度が違う特別支援学級で利用できるのではないかと思います。ニーズがあるかは不明ですが、特別支援学校や放課後デイサービス等への周知も検討してはいかがでしょうか。
- ・図書館が乳幼児からシニアまで、回数や頻度、対象者層などが良く準備された多彩なプログラムを持ち、図書館サービスを行っていることを評価します。
- ・多文化サービスとして英語の図書を購入していますが、袖ヶ浦市の外国人の中で英語を母語としている国の出身者は多くありません。英語の図書を購入することは多文化サービスとは全く別の問題であり、多文化サービスへの取組という点では不十分であり、もっと市内在住外国人に向けた効果的な取組が必要と考えます。

※1 **デイジー図書**：デイジー(DAISY)はDigital Accessible Information Systemの略。視覚障がいなどにより活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格で、CD-R 1枚に約60時間の録音ができるほか、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することができる等の機能がある。音声データと目次・見出し情報等を記録した「音声デイジー」、文字や画像が含まれている「マルチメディアデイジー」などがあり、専用の再生機又は再生用ソフトウェアをダウンロードしたパソコンで聞くことができる。

※2 **多言語対応の電子絵本**：袖ヶ浦市立図書館で提供するのは「多言語絵本の会 RAINBOW」から寄贈された電子図書(CD-R)で、日本語と外国語による音声読み上げ、読んでいるところが画面上でハイライトされるなどデイジー図書と同様の機能があるが、専用の再生ソフトを必要とせずパソコンで視聴できる。

サービス内容（3）「多様な学習機会の提供」取組状況シート

参考指標

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

① 学校との連携

- ・学校の読書や調べ学習を支援するため、市内の小中学校からの依頼に応じて図書流通システムにより2,911冊の団体貸出を行ったほか、学校貸出用利用券により開架資料774冊を貸出した。学校図書館への貸出冊数合計3,685冊。
- ・中央図書館内で昭和小児童による授業の成果物の展示を行った。また、夏のトショロ月間では中央図書館で昭和中図書委員会のおすすめ図書展示、長浦おかのうえ図書館で袖ヶ浦高校図書委員による「袖高とコラボ！親子いっしょのおはなし会」、蔵波中学校美術部の作品展示を行った。
- ・市内の中学校・高校と連携して「イチオシ本のPOPを書こう！」を実施し、中学校4校、高校1校の計5校から536人の応募があった。
- ・昭和小2年生、蔵波小2年生のまち探検の受け入れを行った。

② 関係機関との連携

- ・市民会館・平川公民館合同開催の乳幼児家庭教育学級（うたたねハッピーくらぶ）で読み聞かせと図書館活用法紹介講座「絵本の読み聞かせ&図書館を活用しよう」を行うため、図書館から講師を派遣した。
- ・郷土博物館との連携事業として、中央図書館で「～郷土博物館連携展示～富士山」の資料展示を行い、郷土博物館から展示物を借用して図書館資料とともに展示した。また、郷土博物館に図書館の展示についてのPR用掲示物を掲示依頼し、図書館でも郷土博物館の展示についてのPR及び市民学芸員についての紹介も掲示することで、互いに相乗効果がもたらされるよう工夫した。
- ・市民会館がシニアセミナーを中央図書館で開催した際に、関係資料の展示・貸出を行ったほか、平岡公民館の国際理解セミナーへ関係資料を提供した。
- ・市役所の関係課からの問い合わせに応じて、業務に必要な資料や情報を調査し提供した。
- ・男女共同参画週間（6月23日～29日）の時期に「図書館おすすめ男女共同参画社会関連図書リスト」を作成し、図書館・図書室5館のほか、市民協働推進課へも配布した。

③ ボランティア活動等の推進

- ・おはなし会ボランティア養成講座中級編を開催し、令和3年度に初級編を受講済みで「絵本の読み聞かせボランティア」に新規登録した14名のうち13名が受講した。（おはなし会ボランティアとしての登録の意思を令和5年度の登録時に確認する。）
- ・子どもの本の講座を「お話のたのしさをこどもたちに」というテーマでおはなし会ボランティアスキルアップ講座と兼ねて開催し、おはなし会ボランティア及び絵本の読み聞かせボランティアの資質と技能向上を図った。
- ・おはなし会やブックスタート（すきすき絵本タイム含む）、映画会、資料展示、工作など、市民ボランティアとの連携により、読書普及事業を推進した。
- ・夏のトショロ月間や秋のトショロ月間等の大規模イベントにおいて、社会教育推進員の企画・立案を活かした催しを実施した。
- ・秋のトショロ月間では図書館登録サークルによる成果発表の場を設け、俳句・短歌作品や人

形劇の人形作品等の展示をするとともに、「大人のためのお話し会」や朗読発表会を行い、サークル活動の活性化を図った。また、図書館で所蔵する関連図書の紹介もあわせて行った。

- 平岡公民館シニアセミナーの講座で映画作品を鑑賞する際に、図書館の映画会ボランティアの知見を活かし、上映前の作品解説をお願いした。

④ 図書館からの情報発信

☆図書館が広く市民に活用されるように、市の広報紙や公式LINE、図書館のホームページ、ツイッターやメールマガジン、図書館だより等様々な媒体を活用して、図書館の資料や読書普及事業等について積極的な情報発信を行った。また、市のインスタグラムでも図書館の情報を紹介した。

- ホームページの「特設コーナー」「おすすめ図書」「新刊図書」など図書館資料に関するコンテンツを更新した際に、わかりやすいように画像を掲載して周知を図った。また、読書普及事業の実施状況についてもフォトニュースやツイッターを通じて積極的にPRしたほか、リンク集への新たなリンク先追加など、ホームページの内容を充実させた。

★2年に一度行っている「利用者アンケート」の名称を「図書館の利用に関するアンケート」と改め、「図書館を利用している方を対象とした図書館の利用に関するアンケート」と「図書館を利用したことのない方、ここ数年利用していない方を対象にしたアンケート」の2種類に分けて実施した(7/22～8/11)。また、今回より図書館を利用している方を対象としたアンケートは従来の紙以外にWebでも回答可能とし、図書館を利用したことのない方、ここ数年利用していない方を対象にしたアンケートをWebのみで新たに行った。

参 考 指 標	R7 目標値	R4 実績値	達成度
⑱学校図書館への年間貸出図書冊数	3,500 冊	3,685 冊	◎
⑳学校との連携による図書館内掲示や催し物の年間事業数	7 回	8 回	◎
㉑公民館・博物館等関係機関と連携した年間事業数	7 件	15 件	◎
㉒図書館ボランティア研修会等の年間実施回数	25 回	28 回	◎

成果・効果

- 学校への図書貸出について学校司書との連絡を密にし、学校のニーズに的確に応えたことにより貸出の増につなげることができた。
- 児童生徒の作品展示など学校との連携を積極的に行い、子どもたちが成果を発表し保護者等が見る機会を提供することができた。
- 公民館や郷土博物館と連携した取組みを推進し、事業を充実させることができた。
- 図書館ボランティアや社会教育推進員との協働により、図書館の運営や読書普及事業の内容を充実させることができた。特におはなし会については、ボランティア養成講座中級編を開催し、受講者を素話のできる「おはなし会ボランティア」として養成することができた。
- 図書館ホームページ上で様々なコンテンツを更新・新規作成したほか、メールマガジンだけでなくツイッターも積極的に配信するなど、図書館からの情報発信を充実させることができた。また、市の公式LINEやインスタグラムも活用し情報を幅広く発信した。
- Web上でもアンケートに回答できるようにしたことで、就業している方や子育て中の方など、より幅広い年代の利用者から意見を聞くことができたほか、図書館を利用したことのない方や、ここ数年利用していない方も意見を聞く機会を作ることができた。

課題

- ・「図書館の利用に関するアンケート」では、公民館図書室に望むこととして、家や職場の近くで気軽に利用できるという回答に次いで、公民館に来たついでに利用できるという回答が多い。公民館を利用する方の多くは講座への参加やサークル活動であることから、公民館利用者の図書室利用を促進するためにも公民館事業との連携を図る必要がある。

今後の対応

- ・公民館図書室内に公民館事業の関連図書コーナーをつくるなど、公民館との連携を推進する。

図書館協議会の意見

- ・「イチオシ本のPOPを書こう！」はとても良い試みです。図書館でのイベント時に、POPで紹介された本についてのPR等の発表などをする場を設けることができると、子ども同士の交流にもなって更に良いと思います。
- ・子どもの作品展示等のイベントを企画するとそれを親が見に来て、ついでに図書館を利用するという「ついで」利用につながることを良く工夫して取り組んでいると感じました。
- ・今まで図書館と言えば活字が並んだ本が主流でしたが、色々な情報の様々な入手手段の場であり、見学や体験の場を提供をすることで変化してきています。図書館でのイベントに関連付けたCDや本がその場に置かれ、その場にあることで借りていくというような繋がりを出していくことも学習機会の提供になると思います。